

令和元年度

社会教育・公民館等職員研修会Ⅱ  
(兼) コミュニティづくり研修会1

日時：令和元年8月28日（水）

午前10時 ～ 午後4時

場所：名取市増田公民館



---

宮城県教育委員会・宮城県公民館連絡協議会

## 【学びの振り返りシート】

### 1 午前中の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

一見、公民館で行うべきことか疑問に思うようなことであっても、目的をどこにおくかによっては公民館で行うことに大きな意味を持たせることができるのではないかと感じた。

「いつもカラオケをやっている人が、地域で何をやっているか知る」  
地域づくり、人づくりという目線で日々仕事をしているつもりでしたが、いつしか利用者さんを単に利用者として、地域人材と区別して接していなかったか。その方を個人として掘り下げることなく対応していなかったか、自分の行動を見直す機会となりました。

午前中は参加出来ませんでした。質疑応答だけを聴かせていただきましたが、地域懇談会や広報説明会という阿智村の実践を、名取市であれば公民館単位（小学校区）で行うべきと考えます。

住民自治、住民の学びの保障について、改めて地域を様々な視点で見つめることができる。

地域内にいる障害者の公民館活動、交流について。初めて話を聞き、自分の公民館にも該当することを考えた有意義な研修となりました。

人事異動により手がけていた事業から離れてしまうことはやむを得ないこととはいえ、誰が担当になっても継続していけるように土台を作っていくことが大事だと思いました。

細山さんの体験から「職員1人の力では地域づくりはなしえない」ということを改めて実感した。私自身、オーバーワークで一月ほど休んだことがある。

保健師から学ぶ5つのことは印象に残った。特に「地域をリアルに掴む」において、足しげく通い地域の課題を知る事は大切だと思う。デスクワークだけでは情報は得られないので、アンテナを高くもち、フットワークを軽く、行動していきたい。

社会教育の中核として地域づくり・活性化が捉えられて、個人の課題を共有しながら地域課題として練り直し取り組んでいくことは、地域教育力の向上や持続可能な地域づくりにとって極めて有効だと思う。

細山氏の講話

保健師と公民館職員との協同の力の所が残り、今後の仕事に活かしていきます。（人とのつながり）

保健師と職員の交流は必要と思うが、リハビリ等は問題あるのではないか。

地域の課題は住民主体で、行政（公民館）は先走らない。

公民館に来れない人を対象とした事業。現在も事業や活動として行っている事が後で成果が出ることを考えて行動を進めること。

## 1 午前の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

内部・外部とのネットワークを強めること。職員の資質向上を目指す取組を行うことは、地域を知ること、ニーズ把握と同じくらい大切だと感じました。

公民館は誰でも参加出来る場所ではあるので、住民の多くの人達にベターな企画を考えていただいています。細やかなところは今は各町内会のサロンが伝えているところが大きいです。

高齢者社会ということもあり、当公民館でも多くの高齢者が来館してはいるものの、障がいを持った方が公民館に来ているかというそうではないと感じた。来られる方のみの施設だけではなく、来られない方が訪れることができるような事業も必要であると勉強させられた。

人間足りない部分はあるが、輝くところを必ず持っている。  
そこに目を向けることが仲間である。

公民館に来られない人の存在を常に頭に置いていたと思います。センター内の職人だけでは繋がることの出来ない方々をつなげるために他業種、他の専門職の方々と双方向の関わりを持っていきたいと思っています。

個々それぞれに生き方に大なり小なり生きにくさや困難を抱えている。職員自らも同じである。共に「生き方の学び合い」ができる機会を作りたい。プラモデルを教材とした模型製作会は、その可能性があると感じています。

公民館に来られない人に目を向ける必要があることを学びました。普段、公民館の講座に参加している方から「次は〇〇したい」とニーズが寄せられることはありますが、来ていない人のニーズに気づくため、地域全体に目を向けていかなければと思いました。

生涯学習について、改めて認識させられました。

何もしなくても公民館に来れる人はより（来たくても）来れない人を様々な専門チームと協力して連れ出し学習の場を提供することこそが公民館職員の役割

社会教育は参加者だけでなく、職員も学びを通して変えることが出来るものなのだと思います。また、公民館は住民に一番近い存在であり、だからこそ住民が必要としていることを公民館はしていかなければならないのだと考えさせられました。

「共生・多様性」を理解し差別なく「集い・学ぶ」ことの場を提供することの重要性を再確認することが出来ました。

## 1 午前の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

職員の「異動に伴い主体的な力量が蓄積できない」という文を読んで、確かにそうだなと思いました。さらに担当者によって事業の善し悪しも大きく変わってしまうことも実際に感じることもあります。しかし、細山先生がおっしゃっていた5つの大切なことを聞いて、どんなに異動や担当が変わっても、公民館として地域の中での役割は変わっていないと思いましたし、その姿勢をずっと忘れずにしていくことが大切だと思いました。

保健師、専門職の方々との繋がりが大切だと思いました。自分が担当していた出前講座でいろいろな専門職の人々とかかわる事があったのですが、生かせていませんでした。明日から意識してかかわっていきたいと思います。

「地域リハビリ交流会」をとおして、様々な人々が交流できることは大変よいことだと感じた。障がいのある人も含め、このような交流が地域づくりへの第一歩になるものを考える。

- ・公民館はまさに「生き方の学び合い」をする場なのだと感じました。
- ・リハビリ交流会は将来、取り入れてみたいと思いました。もっと機会を設けて詳しく聞ける機会があればいいですね。

公民館に来られない人

発想の転換で、公民館と保健師とのかかわりで、領域が広がること。公民館が輝ける場所となることが学べた。

市の生涯学習推進計画の中に地域学習センター設置の話をしているところであり、公民館の役割について改めて考えることができ、参考となった。

「公民館だからできること」

公民館への視点が変わり、幅の広さを痛感しました。これまで自分が考える活動が公民館活動の枠をはみ出ると感じていましたが、枠を取り払って活動していこうと思いました。

「地域をリアルにつかむ」

保健師だけでなく、住民のことを知っている人は、行政や地域にいるので情報を聞き出すことが重要だと思いました。

地域をリアルにつかむこと。必要な人に会いに行く。その人の話を聞くこと。大切なことと感じました。

公民館はだれが来ていい場所とは理解していましたが、来られない人がいるとは考えてもいませんでした。それには地域をリアルにつかむことは絶対に必要だと感じました。

## 1 午前の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

公民館の役割、できることについて改めて考えるきっかけになった。

B型機能訓練の重要性。実は今、私が抱えている問題です。当事者は、今までとは違って思い通りにならない体の動きだったり、体調だったり周りの目だったりでなかなか外に出る機会が少なくなっていると思うので、きっかけづくりが必要だと思った。無理強はせず、本人が外へ出て楽しみたいという思いを引き出す事が大切だと思う。(公民館でやることではないと言っていたHさんの心の変化が印象的だった。)

周囲の声をよく聞き、手を取り合い、補い合いより良い方向に進む様に努力していると、面白い結果にたどり着く。未来の変化がとても楽しみに思えます。

共同、住民主体、ニーズへの対応といった公民館運営の理念を改めて確認することができた。仲間、人間関係を公民館活動を通じてどのようにつくるかということが印象的だった。

- ・行政の壁を越えること。→交流する場を設置。
- ・交流→生き方の学び合いが必要。
- ・講習会の継続→事業の長期的展望を持つこと。

認知症について

本人の「なま」の話を伺い認知症への認識が変化した。

公民館と専門的知識を持つ方が力を合わせることで、より課題解決に向けた力を発揮することができることを学んだが、そのためにも公民館職員は人につながりを持ちたいと思われる場を作らなければならないと思う。

行政主導にならず、住民主導でやりたいことの支援や仲間づくりの場の提供が重要であること。

「公民館」が中心の話でありましたが、利用者(住民)のニーズを知り、応える共同、協働は、社会教育全体につながると思いました。住民・地域が主役の事業をどう作っていくか、行政が主導せずどうやれば進められるのか、これから事業を行う姿勢、考え方が変わりました。

「公民館だから鍵をかけない」というエピソードが印象的でした。

地域で必要な事が何か、確実にとらえ行政を地域がそれぞれの得意分野を生かしながら、協力し合い進めて行かなければならない。

公民館社会教育を通じて、人が変わる。公民館とは共通の課題や悩み、趣味を持った人が集い、共に学び合う場所である。そういう場所にしていくためには、住民との対話が大切であると思いました。住民との日常の会話の時間を確保できるように意識していきたいです。

## 1 午前の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

講座をすることが目的になっていないか、私達は参加者が「受けてどう感じたか」を捉えることが必要であると思いました。講座を終え「もっと～したい」と思った参加者へのアプローチ、その人たちを受け入れる場をつくっていくことが大切だと思いました。＝長期的な視野

地域に学び、地域をリアルにつかむ必要性を感じた。特に公民館に来れない人がいて、その人達のニーズを把握することを学びました。

資料3ページの中ほどにある①地域をリアルに・・・～ ⑤専門職集団で・・・が心に残りました。

本年度5月から月1回、包括支援センターと共催で認知症カフェを行っています。まだ試行錯誤しているところですが、それぞれの得意分野、専門性を生かせたらと思います。認知症については素人なのでお話と同じような状況が多々あり、共感しました。

地域づくりは仲間づくり。地域には様々な理由をもった人々が生活している。共生を実現させるためには、地域住民を変えられる策を仕掛けていく必要があると感じた。

公民館は誰もが行っていい場所であるが、公民館に来られない人の視点から、障がいを持つ人も来られる場所づくりで、リハビリ交流会を立ち上げたという点で、保健師と連携しながら保健師からも学ぶことが多いという所が1番印象に残った。公民館の在り方や出来る事について、社会教育は幅広く、様々な手段・方法があることを改めて学んだ。

公民館の役割、あり方、可能性。場をつくれるという強みがあるという事。

専門職と公民館職員の共同により、多くの学びと大きな力が生まれた実践の紹介から、市民と一緒に仕事をし、力を出し合うことが、地域を作る力につながっていることを学ぶことができた。



【講話 社会教育・生涯学習研究所長 細山俊男氏 ～公民館だからできること～】

## 2 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

認知症当事者からこれまでの苦労や思いを聴き、元々持っていたイメージは間違っていたと気づいた。公民館は誰でも来ていい場所なので、認知症に限らず多様な知識を職員が持つ必要性を感じた。

「先まわりしてやってあげるのではなく、できない所だけ手伝ってほしい。」当事者の生の言葉に触れて「何も伝わらない、理解できないのではないが」という不安は間違っていたことをはっきり知り、当事者から学ぶ当事者を含めた共同学習の重要性を実感しました。

認知症当事者からこれまでの苦労や思いを聴き、元々持っていたイメージは間違っていたと気づいた。公民館は誰でも来ていい場所なので、認知症に限らず多様な知識を職員が持つ必要性を感じた。

大事なことと考えたのは、当事者主体ということと、一般の方へ認識の広がりです。プライバシーへの懸念が出ていましたが、公になることを拒むのは、主として家族の視点であり、当事者の視点ではないと思いました。

「先回りしてやってあげるのではなく、出来ない所だけ手伝ってほしい」当事者の生の言葉に触れて“何も伝わらない、理解出来ないのではないか”という不安は間違っていたことをはっきり知り、当事者から学ぶ、当事者を含めた共同学習の重要性を実感しました。

身近な地域の事例で当事者が自立したいという思い、触れることができた。

まず社会教育の研修に、このテーマが取り上げられたことに感謝申し上げます。認知症への理解がもっと広がり、共に生きられる世の中になれるといいと改めて感じました。発表された方の熱い思いが伝わる機会をいただき、学びの時間になりました。

加藤さんと鈴木さんのお話はとても衝撃的でした。市民センターを利用されている方の中には認知症の方が多くいますが、どなたにも高齢者で「年だから」とあきらめている方も多いです。若い方のこれからの生き方もみんなで考え、支えていくことが大事ですね。

「認知症」についての偏見が自分にはまだあるなど反省しました。出来ないのではないかと勝手に考えてしまっているからです。しかし、今日の午後の研修は個人の課題を地域が共に解決しようとする体制に正直驚きましたし、地域をよく知るためには、1人1人の課題にも耳を傾けていくことがこれからの社会教育に求められているのかなと思いました。

## 2 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

当事者の話が聞けたというのが大きいと思います。いつもの学びとは自分自身が大きく課題意識を持ったという所が違うのかなと思います。

当事者の話を聞く機会はなかなかなく、大変貴重だった。当事者を含め、意見を出し合える場を作ることが重要であると感じた。

「認知症」についての偏見が自分にはまだあるなど反省しました。出来ないのではないか、無理ではないかと勝手に考えてしまっているからです。しかし、今日の午後の研修は個人の課題を地域が共に解決しようとする体制に正直驚きましたし、地域をよく知るためには、1人1人の課題にも耳を傾けていくことがこれからの社会教育に求められているのかなと思いました。

鈴木さんの当事者としてのお話に深く感銘しました。「私たちは出来ないはいっぱいあるが、出来る事は自分でやりたい。」公民館は学習の押しつけにならずに学習者の声を聞いて、事業を組み立てていかなければならないと改めて感じました。

認知症を知る機会を多くつくり、多くの人に知って理解してもらいたい。共生はこれからの社会において創られなければならない。希望、輝ける場、機会を作ること。知らないことが多すぎました。

認知症だけでなく、このような地域課題を話題として扱っていくことの大切さを感じた。

個性を理解し受容することの大切さ、必要性を学びました。

絶望→仲間との出会い→希望

↑

本当に支援が必要な人をどう把握し、どう足を運んでもらうか。まず、それを考えなければ本当の支援はできないかと思いました。

認知症当事者の方々のお話、ありがとうございました。

認知症の当事者が受け入れるか受け入れないか、周囲が理解しているか理解していないか、自分ごととして、いざその場面で自分がどうするかと考えさせられました。

福祉分野など広い視点で社会教育を行っていかなければならないと感じた。

認知症は本人、家族だけではなく、まわりの理解も大切で、本人、家族が相談出来る場所も必要。地域ぐるみの理解が必要。私は介護、看護を経験して来て、自分の方が大変とっていたが当事者が一番辛く、苦しいという事が理解出来た。



## 2 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

鈴木さんがお話していた時の、若生さん、今田さん、佐々木さんの優しい微笑みが印象的でした。心が温まりました。出会いに感謝ですね。

認知症の方、そしてその支援をする方の思いを感じることができた。また「認知症」のイメージが変わった。

認知症の方の「居場所」作りの大事さ。→仲間の支え、楽しさ→参加→生きること→変わる→行動できる。 仕事の環境創りが大事なこと（理解と環境）

おれんじドアの加藤さんとうらやす職員の鈴木さんのお話で本人の苦悩といらだち、不安が認知症を知ることになりました。感動しました。

認知症の方と接する際、先ず先に何かしなければという思いが立ち、相手がどうしたいのか、何をしたいのかと考えることを今までしてこなかったが、そのような上から目線ではなく、共に考え、行動することで互いに存在を認め合える関係が築けると思う。

認知症の方の飾らない言葉を聞いたこと。

認知症当事者の話が聞ける機会はなかなかないので、様々なことを考えさせられました。多くの場合、認知症であることを隠したいのだろうと考えていましたが、話せる場、話せる相手があれば、やはり話したいでしょうし、理解してほしいと考えるのは自然なことであろうと思いました。そのように、どのような相手でも受け入れ、理解し合える人のつながりを築ける社会教育でありたい、していきたいと思いました。

実際に認知症の方の声を聞ける機会が貴重でした。出来ないことでなく、やりたいことに目を向けるというのが印象的で、まちづくりに関して全てに通ずると感じました。

認知症の当事者の声。双方向のやり取りの大切さ。

多様な人が安心して暮らすことができるシステム作りが必要。地区公民館としては当事者はもちろん、自治会長、民生委員の方々との情報共有が必要だと思った。

認知症の当事者である鈴木さんの「自分でできることは自分でやりたい。仕事を続けることで自分の力で生きていく。社会とつながっていきたい。」という言葉は胸に響きました。様々な課題を抱えた方がいると思うが、そういう方々が社会とつながり、生きがいを感じてもらえるような場を提供することも、公民館の役割の1つだと学びました。

共生＝多様性を認める社会の形成が大切だと思いました。地域の方々から課題を吸い上げ、解決していく場の提供。

## 2 午後の講話から印象に残ったこと、学び得たことは何ですか。

当事者の方の話は心に響きました。  
相手との話し合いが大切であると感じた。

認知症カフェはスタートしたばかりですが、関わる職員として知識や理解を深めたいと思います。今は包括支援センターさん主導で進んでいますが、上から目線を正直なところ感じるがあります。当事者目線が大切だと感じました。サロンなど当事者と家族など、対象を明確にした方がよいこともありますね。

共生するためには、当事者や家族だけでなく、まわりの住民に理解してもらえるような地域をつなぐ取組が大切であると感じた。

認知症について事例を交えて話を聞き、同じ悩みを持つ人々が集まれる場所づくりが必要であり、認知症は重く受け止めがちで全てにおいて支援しなければならないと思ってしまうが、当事者の話を聞いて、出来ない事だけを支援してほしいと望んでいることが分かった。

鈴木さんが「自分がやりたいことを実現出来る場所がある」「働きたい。自分の力で生きたい」と話していた時の言葉の力。学んで感じたものは繋げていく役割があることを身にしています。

認知症当事者の「自分でできることは自分でやりたいんだ」というリアルな声が印象に残った。問題の大小関係なく、地域全体の課題として捉える目の大切さを学んだ。



### 3 本日の学びから活かせることがありましたら御記入ください。

講座を企画する上で、必要なことは何か。目的は何か。その後どうなっていてほしいのかということを考えていきたい。そのためにも地域の現状やリアルな住民の声を知っていなければならないと思う。

今日のお話を参考にすることで軽やかに尻込みせずに動ける気がするのと、結果として有意義的な活動に繋がるのではと感じています。

私はこれから市民の立場で生きていくわけですが、本日学んだような、見えにくい課題を当事者の視点で一般の私たちに学ばせてくれるようなことを公民館が取り組んでもらえるよう提案していきたい。そこから行政と住民の役割とあり方を議論できる場に発展させたい。

社会教育と学校教育の境界線をなくさなくてはならないと感じた。

認知症に限らず、人と人が理解し合える場づくりから始めていきたい、いけたらと思います。

当市民センターでは「認知症カフェ」を行っています。参加される方は認知症に限らず様々な悩みを持っている方が多いです。マイノリティーの方のお話を聞いて、支援できることを探していきたいと思います。

異動のある期限付きの職員の私が、その中でどのように地域にかかわっていくか。このモヤモヤはきっと意味がある！はず。

積極的に色々な人と関わり、話を聞いていくことが課題収集の第一歩だと思った。

ピンチはチャンス。少数派の課題を共有し、誰にでも起こり得ることとして捉え直して、みんなで取り組むことにより、地域は変わる。

「共同学習」を支援するのが社会教育である。これから「まちづくり」に活かして行きたい。

認知症との対応が少しでもわかりあえる事が出来ました。公民館で歓迎されるような対応をしたい。人とのつながりが大事である。

地域づくりが少し面白くなりそうです。

地域づくりに活用していきます。

「できないところを支援する」ということの大切さ。本人の思いや力を周りが手助けしすぎてしまい、その力を奪ってはいけない。公民館だけが頑張るのではなく、様々な機関とつながり、それぞれの強みを生かしていくことが住民にとってプラスになる。

### 3 本日の学びから活かせることがありましたら御記入ください。

声にできない人の思いをくみとれるようにということが大切だと思いました。認知症を生活の場で捉えるように考えていきたいと思います。

公民館に普段来ない（来ることのできない）人への何かしらの対応が出来ないかと考えさせられたこと。では、どのように進めていこうかとなった時、自分一人では難しく職場、地域、行政など多くの絡みが必要であると感じた。なかなか見ることのできない視点から学習することができ、有意義だった。

社会教育と社会福祉について深く学べました。公民館の役割、可能性を再認識出来ました。

公民館の雰囲気作りに気をつけ、様々な話に耳を傾けたいと思う。

いくら理解や場、水平の関係があっても出来ないこともある。共に学び、共に成長する意識が大切。

社会教育施設の職員としてすぐに何か動くということは難しいところがあるかもしれませんが、人として地域の住民の一人として様々な人が生きているということを当たり前理解した上で、色々な場面に接していきたいと思います。

公民館に来たくとも来れない方々に向けた講座、内容、テーマ（開催日時、場所、参加費、学び得るもの）をお金（予算）がない中でも工夫しながら組み立てて実行しなければならないと感じました。

保健師の方と協力する体制づくりをしていきたいと思いました。どうしても異動が伴うため、長期的な支援をするため、うまく協力することで事業を継続していけるのではないかと思います。協力できる仲間を見つけ、地域の課題のための意見交換をしてみたいと思いました。

公民館の利用者は高齢化がますます進んでいます。今回の研修会の内容を活かし、利用者にとって優しい行動をとっていきたいと思います。

まず、会いに行き、話を聞くことが大切。

誰でも利用できる公民館であるよう心掛けしていきたいです。

「認知症」の方が迷惑を掛ける・・・と捉えてしまうのではなく、「認知症」についてよく知ってもらえる場を作っていくこと、それが1人1人の尊厳をもって生活できる共生につながることを理解出来ました。いろいろな考え方があり、コミュニティづくりの素晴らしさを感じました。すぐに実践できることはないけれど、とても大切な考え方だと思います。

初心に戻って、地域に出て、話を聞くをしたいと思います。

### 3 本日の学びから活かせることがありましたら御記入ください。

社教現場として様々な立場の方々の意見を聞く場を設け、よりより事業を展開していく努力が必要と感じた。

これは「認知症」によらず、様々な障がいを持つ方について、公民館はどう向き合っていけばいいのか考えさせられました。また「認知症」の方が当事者から支援者になって活動できる場が作れば良いと思います。

当事者の立場で物事を考え発想すること。広義な公民館活動を展開していきたい。

地域を知るためには地域の人のお話を聞く。このことをこれからも大切にしていきたい。

自分で勝手に枠を作らず、話合いの場をつくり、大切にし、住民の皆さんの意見を吸い上げていきたい。

公民館職員としてニーズの把握には限界がある。横のつながり、連携を意識して事業展開をしていきたい。

当公民館認知症講座で活かしていきたいと思います。

障がいを持っている方、認知症と診断された方、このような方だけでなく地域の沢山の方と繋がりを持っていくために、相手意識をいかに持てるかだと感じました。

広い視野を持ち業務を行いたい。

午前の講話も午後の講話でもまわりの理解がとても必要だということ。当事者も家族、また地域全体で理解できるような学びの場が必要なので、その様な学習の機会を作りたいと思います。

とても貴重なお話を聴く事が出来ました。ありがとうございました。公民館は赤ちゃん～お年寄りまで集まり、色々な課題に向き合える団体の1つです。自分が出来る事を改めて考え事業に取り組みたいと思います。

社会教育の取り扱う範囲と広さを感じ、ニーズがあれば何にでもチャレンジできる領域だなと感じた。認知症の理解を深めていきたいと思った。

行政の居場所作り施策の提言→共生

当館では少数派の方が公民館を利用する視点が不足した状態で運営しているので、他の職員と今回の内容を共有し、運営に活かしたいと思う。

やりたいことを実現する場として、公民館を機能させたいです。

### 3 本日の学びから活かせることがありましたら御記入ください。

地域住民の方々が持つ様々なニーズや困りごとに対しても、それに答える力を行政は持っているのだと思います。どんなニーズがあるのか話を聞き、社会教育、生涯学習に携わる私たちが行政の各課をつないでいくのも大切かなと思いました。地域の人々とつなぎ、皆が幸せになれる社会づくり、考えていきたいです。

公民館として出来る事が多くあると感じた。大変勉強になりました。ありがとうございました。今後の公民館運営に生かされるよう努力します。

地域をリアルにつかむことが大切だと学びましたが、そのためには、住民の話を聴くことが最も重要な事だと思いました。日頃、デスクワークに集中してしまい、なかなか会話をする時間をとっていませんでしたが、可能な限り、笑顔で会話し、また来たいと思ってもらえるような環境づくりをしていきたいです。

現場に足を運び、対話をすることはどんどん実践していきたいと思いました。

社会教育領域の幅の広さを感じました。枠にとらわれないで事業展開できればと思いました。

「人が変わる」人の話をよく聞く。オープンで親しみやすい雰囲気など相手に受け入れてもらえるように努めたいと思います。これから地域でお互いに助け合える関係作りの一助となるように講座「ご近所応援団～認知症についてやさしく学ぶ ホッとひと息カフェ♪」に生かしていきたいと思います。

公民館のあり方や公民館の視点から社会教育について学ぶことができ、社会教育は幅が広く、色々な方法・支援の仕方があると分かりました。

「福祉」というブラックBOXの中で地域包括ケアシステムが進んでいかないように、他領域のこのような研修は視野が広がり、楽しいです。社会教育×〇〇〇で、あらゆるコラボが出来るのではないかと感じています。

地域のリアルをつかむことに王道はなく、実際に住民に会いに行くしかない。社会教育実践を考えるにあたり、住民の声に耳を傾けることを大切にしていきたい。

